


事項	アカヒゲホソミドリカスミカメの発生は性フェロモントラップで簡単に調査できる		
ねらい	斑点米被害をもたらすアカヒゲホソミドリカスミカメの水田内発生調査はこれまで技術や労力を要するすくい取りにより行われてきたが、性フェロモン剤が開発、市販され、誰でも簡単に調査できるフェロモントラップが利用できるようになった。そこで、フェロモントラップの使い方を検討したところ、成虫を効率的に調査できることがわかったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 フェロモントラップ調査法</p> <p>(1) トラップの設置方法 トラップは発生予察資材として市販されている粘着板(24cm×30cm)2枚を横置きで粘着面を外側に背中合わせにしたものを利用する。これを地面と垂直になるように2本の棒にクリップ等で側面を固定し水田内に立てる(写真)。市販の合成性フェロモンは粘着板の上辺中央に針金とクリップ等を利用し付ける。トラップの設置高は粘着板の底辺が稲の草冠高になるように適時調節する。フェロモンは1か月おきに交換し、粘着板は適宜交換する。</p> <p>(2) トラップの設置場所と設置数 ア トラップは水田内のどこに設置しても誘殺数に影響はない。 イ 畦畔際に設置する場合は農道の法面側など広い畦畔があるところは避ける。 ウ 設置数は管理や環境条件が同じなら面積にかかわらず1か所でよい。</p> <p>(3) トラップの設置時期と調査間隔 成虫は出穂とともに水田に侵入するのでトラップは出穂前に設置し、長くても1週間間隔で調査する。</p> <p>2 フェロモントラップの利用法</p> <p>(1) 出穂期の発生ピーク前後の誘殺数でおおよそのアカヒゲホソミドリカスミカメ発生状況を知ることができる。 (2) 防除前後の誘殺数をみることで防除が適切だったか確認できる。</p>		
期待される効果	アカヒゲホソミドリカスミカメの発生量をすくい取りと比べ高精度で簡単に調査することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 別種のアカヒゲホソミドリカスミカメは誘引しないので、その発生地域ではすくい取り等の調査も行う必要がある。</p> <p>2 トラップ誘殺数が多いほど無防除圃場で斑点米率が高まる傾向があるが、誘殺数から斑点米による落等の有無を予測することはできない。</p>		
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センター病害虫防除室 (木村勇司、市田忠夫)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成18～20年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

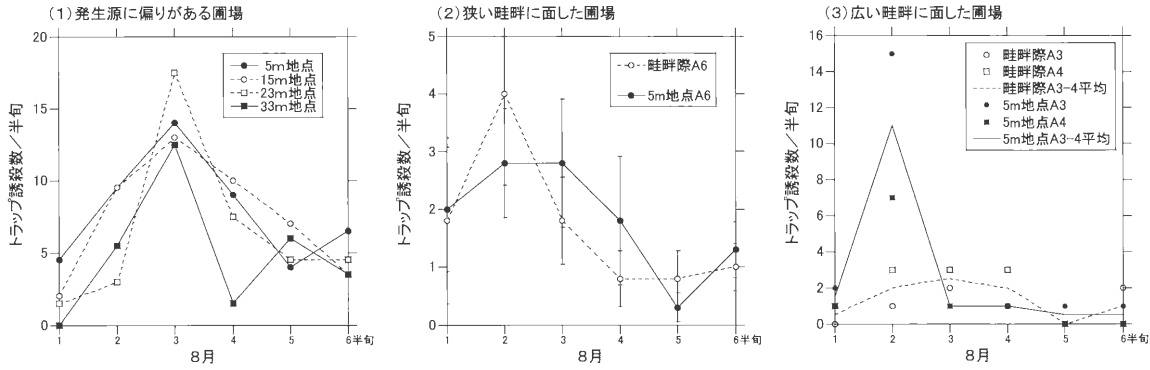


図1 性フェロモントラップの設置場所による誘殺数の違い (平成18、20年 青森農林総研)

(注) (1)は圃場 (38m×70m) の片側畦畔に発生源があり、その他の畦畔は除草を行い、発生源から5m、15m、23m、33m地点にトラップ各2個を設置して誘殺数を調査。(2)は0.5m幅の狭い畦畔に面した圃場 (19m×70m) の畦畔際及び畦畔から5m地点にトラップ各4個を設置、(3)は5mの広い畦畔に面した2圃場 (調査区各19m×34m) に各2個設置し誘殺数を調査。いずれも栽培品種はつがるロマン

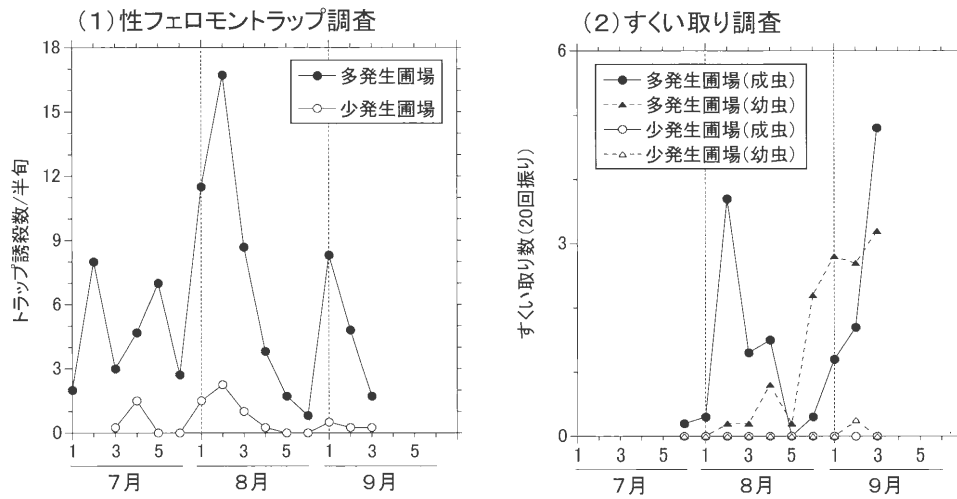


図2 性フェロモントラップとすくい取りによる成虫発生消長 (平成19年 青森農林総研)

(注) 2007年の調査結果で、多発生圃場は境松A4、A6、小学校前の3圃場平均、少発生圃場は田中D1、D2、D8、D9の4圃場平均

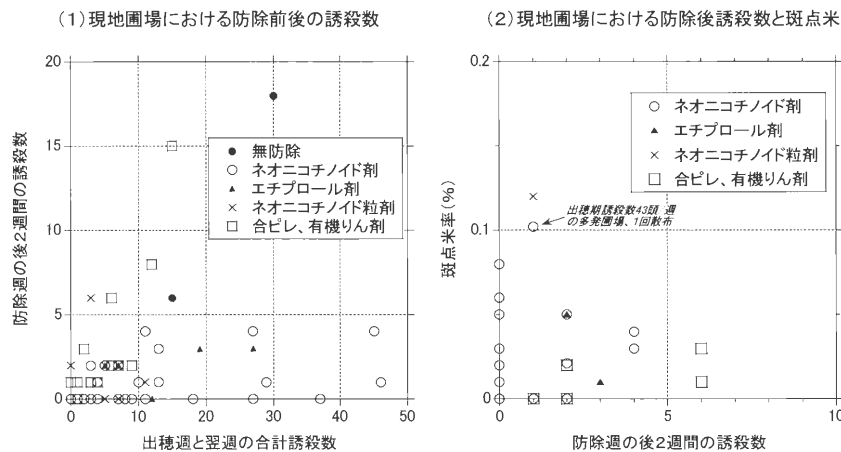


図3 現地慣行防除圃場におけるトラップ誘殺数と斑点米 (平成19、20年 青森農林総研)

(注) (1)は2007～2008年の延べ77圃場のデータで防除薬剤種別にプロット、品種はつがるロマン、まっしぐら、(2)は(1)の圃場のうちアカスジカスミカメの発生が確認されていない39圃場のデータのみをプロット (アカスジカスミカメの発生している圃場ではアカヒゲホソミドリカスミカメ対象の防除法で斑点米被害を抑えられないケースがあるため)。

(参考価格) フェロモン剤7,875円 (12個)、粘着板3,360円 (12枚)、8月の4週間調査で粘着板を週ごとに交換するとして 2,896円/1か所